

◎ガナトン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】イトプリド塩酸塩 Itopride Hydrochloride 【分類】消化管運動賦活剤

【単位】◎50mg/錠

【常用量】150mg/日

【用法】分3 [食前]

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】ドパミンD2受容体拮抗作用とアセチルコリンエステラーゼ阻害作用との協力による消化管運動賦活作用および制吐作用を有する。ドパミンD2受容体拮抗作用による錐体外路症状やプロラクチン分泌亢進による乳汁分泌や女性化乳房などの副作用が少ない。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー、肝機能障害、血小板減少、下痢、便秘、腹痛、唾液増加、頭痛、睡眠障害、めまい、プロラクチンの上昇、白血球減少、腎機能障害、胸背部痛、疲労感など

【F】約80% (1)

【tmax】0.5hr (1)

【代謝】肝代謝され、代謝物M1、M2、M3には薬効はない (1) 主代謝物のN-オキシド体の生成にはFMO (分子種としてFMO1及びFMO3) が関与し、CYPの関与はない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率4.14%、代謝物として約75%が尿中回収 (1) 尿中排泄物の89%がN-オキシド体 (1) 【CL】69.5L/hr (1) 【腎CL】2.5L/hr (1)

【t1/2】約6hr (1)

【蛋白結合率】96% (1)

【Vd】9.48L/kg (1)

【MW】394.89

【透析性】蛋白結合率が高いため透析で除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない 【O/W係数】5.7 [1-オクタノール/buffer, pH7.4] (1) 【pKa】8.72 (1)

【更新日】20230705

※正確な情報を掲載するよう努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の損害について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインターネットフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断複数・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。